



平成29年11月1日号(No.181)

「先生の『聞き出す力』」

伊丹市立総合教育センター
所長 後藤 猛虎

センターにいと授業を見る機会に恵まれます。若い先生の授業を参観した時の話です。

授業は、3年生の「たし算とひき算の筆算」の単元で、何百のたし算の仕方を考えるところです。具体的には、 $700 + 400$ の計算の仕方を考える授業です。先生は、100円玉のお金の模型を使って何個分あるかを黒板に提示して、一人一人に計算の仕方を考えさせました。発表する場面です。Aさんは、400円を300円と100円に分け、700円に300円加えて1000円にし、残る100円を足す仕方で1100円と答えました。先生は、うなずいて、みんなに「同じ人はいますか」と聞き、「いいですね。はい拍手」と言って黒板に仕方を書きました。つづいてBさんは、 $7 + 4$ で11、あとで0を2つたして、1100円と答えました。先生は、みんなに「どうですか」と聞き、うなずきがあったので、「これもいいね。はい拍手」と言って、黒板に仕方を書きました。そして、先生が、「700円+400円は、100円玉が $7 + 4$ で11個で1100円だね」という言葉でまとめました。授業を見ていて、もうちょっと子どもの考えを聞き出してくれたらと残念になりました。



さて、2年間で150万部が売れたという、阿川佐和子さんの「聞く力 心を開く35のヒント」という著書をご存じでしょうか。「面白そうに聞く」「『あれ?』と思ったことを聞く」「素朴な質問は大切に」「相づちの極意」等35のヒントが軽妙な語り口で書かれています。例えば、城山三郎さんとの対談では、聞き上手な城山さんの「そう」「それで?」「どこが?」「おもしろいね」「どうして?」「それから?」の言葉に乗せられて、阿川さんが一方的に話す結果となってしまいます。「聞く力」が相手の話を引き出したのです。

ところで、この授業でこれらを使ってみてはどうでしょうか。Bさんが、「 $7 + 4$ で11、あとで0を2つたして1100円」といった後に、「面白いね、あとで0を2つたす?」「どうして?」「0はどこからきたのかな?」等々、ほんの一言、聞き出してくれたら授業はもっと深まったのかもしれない。教師は子どもの話を聞くのが商売といっても過言ではありません。聞き出し方によって子どもの思考や授業に計り知れない影響があるのです。

全国学力・学習状況調査結果から

平成29年度全国学力・学習状況調査結果の分析を行い、伊丹市の子どもたちの状況を把握するとともに、伊丹市が大切にしている学習指導の改善と充実のポイントをまとめました。日々の実践の中で継続的に取り組みましょう。

1 わかる授業の創造

【質問項目】

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか

ポイント!



児童生徒が「わかった」と実感する授業を実践する

① 適切な「めあて」を設定しよう

- (1) 「めあて」の提示につなげる導入を工夫しよう
- (2) 児童生徒が見通しを持てる「めあて」を提示しよう
- (3) 授業のねらいにせまる「めあて」を設定しよう

② 「振り返り」の時間の確保と工夫をしよう

- (1) テストやアンケートなどの結果をもとに、子どもの理解度を確認しよう
- (2) 板書づくりとノートのとり方を工夫しよう
- (3) 次時への動機づけとなるような振り返りをしよう

③ ICTを活用し、視覚的に理解しやすくしよう

たとえば...

「いろいろな三角形の面積を求めよう」
〈小学校5年 算数 三角形の面積〉

【活動】
高さが図形の外にあるいろいろな三角形について、面積の求め方を考え、グループで話し合う。実物投影機を活用して、高さをどのように考えたかはっきりわかるように説明させる。

「グループで「聖者の行進」を演奏しよう」
〈中学校1年 音楽 アルトリコーダー「聖者の行進」〉

【活動】
グループでリコーダーの練習をし、演奏している姿を動画に撮影して閲覧する。指使いを確認し、苦手なところをチェックしながら技術の体得をめざす。

2 考えて書く活動の充実

【質問項目】

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたことは難しいと思いますか

ポイント!



書く活動を教科等、特別活動、行事等のあらゆる機会を設定する

① 書く機会を多く設け、書き慣れさせよう

- (1) 筆者の主張に対して、本文の言葉を用いて自分の考えをまとめる活動を取り入れよう〈国語など〉
- (2) 「読書タイム」と関連付けて、定期的に感想文を書く活動をしよう
- (3) 様々な統計グラフから、グラフから読み取ったことや意見を書く活動を取り入れよう〈国語、算数・数学、社会、理科など〉

② 個人思考の時間を確保し、書く機会を設けよう

- (1) ひとり学び・個人思考の時間を確保し、自分の考えをしっかり持てるようにしよう
- (2) 思考ツール等を活用して、自分の意見を明らかにする機会を設けよう

たとえば...

「レオ＝レオニのお気に入りのお話を紹介しよう」
〈小学校2年 国語 スイミー〉

【活動】
レオ＝レオニの作品の中で、好きなお話のあらすじを百字程度にまとめ、友達と交流する。

「ハードル間を3歩でリズムよく走るためのポイントを知ろう」
〈中学校2年 保健体育 ハードル走〉

【活動】
ハードル走の3つのポイント(「リード脚」「上体」「抜き脚」)を意識して3歩の走りに挑戦することで、ハードル走についての自分の理解がどのように変化したのか、教え合いの活動などを通して自分の考えを書かせる。

3 発表する活動の充実

【質問項目】

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまくつたわるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか

ポイント!



自己表現の場として、発表する場を設定する

① 安心して発表できる学級づくりをしよう

- (1) 互いを認め、尊重し合うことができる、支持的風土がある学級づくりをし、安心して学べる環境をつくろう
- (2) 学習活動の中にペアやグループでの話し合い活動の場面を設定し、一人一人が自分の考えや意見を説明する活動を充実させよう
- (3) あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりする活動を取り入れよう

② 学習の成果を発表する機会を設けよう

- (1) ペアやグループで話し合ったことを全体に発表する機会を設けよう
- (2) 学習の成果をプレゼンテーションしたり、いくつかのグループに分かれて討論したりするなど、多様な話し方のスキルを身につける機会を設けよう

たとえば...

「消防署のひみつ絵本をつくろう」
〈小学校3年 社会 火事からくらしを守る〉

【活動】
消防署の仕事について調べ、速く火を消すことができるひみつについてグループで協力して絵本にまとめる。まとめた絵本について、発表して交流する。

「赤い水とエタノールの混合物から、エタノールだけを取りだそう」
〈中学校1年 理科 物質の状態変化〉

【活動】
食紅で染めた水とエタノールの混合物を熱し、分留する実験を行う。実験の結果から沸点の違いを利用して物質を分離する蒸留の原理を理解し、説明できるようにする。

平成29年伊丹市議会（9月定例会）における質問について

平成29年伊丹市議会（9月定例会）で、「外国語活動-外国語を習得することとは」の質問趣旨及び伊丹市教育委員会の答弁を抜粋、要約して紹介します。

【質問趣旨】

日本語の習得はもとより、多面的に子どもたちに力をつけていかなければならない中で、教育委員会は英語の習得に対してどのように考えているのか



【答弁内容要約】（教育長答弁）

平成32年度から新学習指導要領が全面実施となり、小学校の3・4年生で外国語活動が、5・6年生で外国語科が実施されます。

なお、学習指導要領には、外国語活動および外国語科では、「英語を取り扱うことを原則とすること」と明示されており、**英語を中心に**学習をすすめていくこととなっております。

外国語教育の大きな目標は、グローバル化が進む社会において、**語学力とコミュニケーション力**などを備えた**国際社会で活躍することのできる人材の育成**であります。

今、社会では、小学校で英語が正式な教科となることに大きな注目が集まっています。早くから英語に触れることによって、**英語に対する抵抗感をなくし、英語の学習自体を楽しめるよう**になったり、**聞き取りや発音が身に付いたり**する「メリット」は大きいものがあると思います。

一方で、英語はあくまでもコミュニケーションツールであって、話す中味が大切だ、まずは小学生には、たくさんの日本語に触れさせ、その言葉を使いこなせるようにし、言葉を用いて論理的に考え、表現する力を身に付けさせることが大事だという考えもあります。

グローバル化は、街の中、クラスの中、修学旅行や国際交流など身近なところでも見られるようになってまいりました。このような状況を目の当たりにしたとき、英語が先か、日本語が先かということではなく、**両方の資質を並行して習得していくこと**が必要だと考えます。

例えば、「学力」は、学習指導要領においては、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」の3つの資質から定義されていますが、どの資質を先に身に付けさせるのかということではなく、今の時代を生き抜いていくためには、これら**3つの資質を同時に習得する**必要があり、**一体的に育成**していくことが求められています。

英語についても、子どもたちが置かれている状況は、全く同じであり、ことば科や全ての教科を通じて「言語活動の充実」に取り組むとともに、並行して「英語教育」を進める必要があると考えております。

発行 伊丹市立総合教育センター

月～金 9:00～21:00 所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番 TEL 072-780-2480 FAX 072-780-2482
土 9:00～17:00

休館日 日曜・祝日、年末・年始 総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>